

「台湾／満洲／朝鮮の植民主義と文化交渉」国際シンポジウム
及び「東アジアの植民主義と文学研究会」2022 年大会

"The colonialism and cultural interaction among Taiwan, Manchuria and Korea"
International Symposium & "East-Asia Colonialism and Literature Association"
2022 convention

関係者各位：

「東アジアの植民主義と文学研究会」は、二人の研究先達者、大村益夫先生と金在湧先生の唱道により、2005 年より 2014 年まで 10 回にわたり韓国でおこなわれた「植民主義と文学」国際シンポジウムの会議精神と協同関係を受け継ぎ、2015 年より新たに始動した第 2 ラウンド国際的な研究活動です。私たちは「独立自主、相互理解、民間の立場」という基本原則に従い、共に東アジアの植民主義と文化の諸問題について継続的に思考し探求していく所存です。

これまでは、2015 年中国・上海、16 年台湾・新竹、17 年日本・東京、18 年日本・沖縄、19 年中国・長春で現地開催され、20 年は韓国、21 年は台湾主催のインターネット会議が開催されてきました。2022 年はコロナウィルス感染症の影響を見極めつつ、対面とオンラインで同時開催いたします。みなさまのご参加をお待ちしております。

時間： 2022 年 8 月 16 日（火）-17 日（水） 9:30 ~ 17:30（東京時間）

現地参加者日程：15 日 国内外参加者到着・受付 / 16-17 日 研究大会・国際シンポジウム / 18-19 日
歴史文化施設見学・都立大での学術セミナー / 20 日 解散・帰国

会場： 東京都立大学・5 号館 134 室（東京都八王子市南大沢 1-1） ※入場人数制限あり

会場マップ：[No.161 campusmap20180621 \(tmu.ac.jp\)](https://www.tmu.ac.jp/campusmap/20180621)

Online 同時挙行 参加希望者は、氏名・所属・研究分野を添えて下記事務局までお申し込みください。折り返し参加情報をお伝えいたします。

主な議題： コロニアル、ポストコロニアル理論と東アジアの植民地経験 / 植民地都市と文化の越境 / 文学、文化の記憶と想像 / 調査、旅行、移動とディスカール / 異文化接触、メディアと言語の体制 / テキストの越境、翻訳行為、検閲など。

参加申込： オンラインは自由参加。現地参加は 20 名まで。ご希望の方は下記までご連絡ください。

主催者： 「東アジアの植民主義と文学研究会」 / 東京都立大学・大久保明男

事務局： 大久保明男 ohkubo@tmu.ac.jp / 代珂 chubun.dk@gmail.com)

特記： この会議は、「東京都立大学学術会議開催支援」を受けております。